

9月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

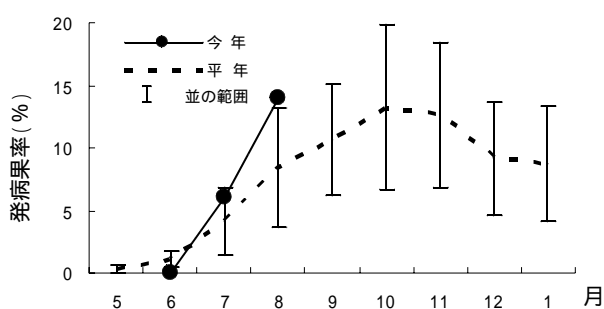
1 タンカン

(1) かいよう病

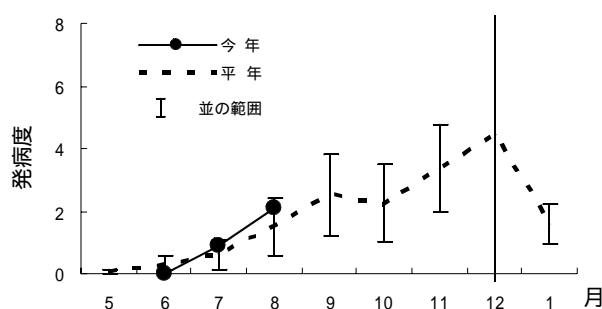
発生程度 : やや多

予報の根拠

8月下旬の調査の結果、果実における発病果率は14.0% (前年6.4%、平年8.4%)と平年よりやや高く、発病度は2.1 (前年1.0、平年1.5)と平年並であった。



タンカン果実におけるかいよう病の発生推移



タンカン果実におけるかいよう病の発生推移

防除上注意すべき事項

- 罹病した枝葉及び果実は、伝染源となるので除去する。
- ミカンハモグリガの穿孔から病原菌が侵入しやすいので、同虫の防除を徹底する。
- 台風の前後に薬剤防除を行う。

2 マンゴー

栄養成長期の病害虫防除対策

- 8月下旬の調査の結果、一部の施設でチャノキイロアザミウマが多発していた。
- この時期の不要な新梢は、本種の発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。
- 本種は雨に弱いことから、灌水を兼ねて洗い流すと密度低減につながる。
- 1回の薬剤散布だけでは効果が出にくい場合は、1週間程度の間隔で数回行う。
- 薬剤抵抗性を発達しやすいことから、同系統薬剤の連用を避ける。
- 軸腐病対策のため、剪定後直ちにゆ合促進剤を塗布する。
- 台風前後には銅水和剤による予防的な防除を実施する。

3 にながり(施設)

タバココナジラミ(シルバーリーフコナジラミ)の防除対策

- a 8月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.5頭(前年0.2頭、平年1.1頭)と平年並であったが、一部圃場で多発生が見られた。
- b 多発すると、排泄された甘露にすす病が発生し、光合成を阻害したり果実の汚れを引き起こす。また、防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- c 摘葉等による残渣は、本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- d 前作の残渣は施設内で枯らし、本種の発生がなくなってから施設外に持ち出し処分する。
- e 周辺雑草は発生源となるので、除草に努める。
- f 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- g 本号7、8ページ参照

4 なす(露地)

タバココナジラミ(シルバーリーフコナジラミ)の防除対策

- a 8月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.5頭(前年2.4頭、平年1.4頭)とやや少なかったが、一部圃場で多発生が見られた。
- b 多発すると、排泄された甘露にすす病が発生し、光合成を阻害したり果実の汚れを引き起こす。また、防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- c 周辺雑草は発生源となるので、除草に努める。
- d 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- e 本号7、8ページ参照。